

平成 27 年度 桃山東小学校 学校経営計画

学校教育の重点

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども

— 確かな学力・豊かな心・健やかな体 —

○ 学校教育の基本指針

○ 学校運営の着眼点

○ 平成 27 年度 重点項目

◆ つけたい力を明確にした「言語活動」

◆ 自律性と責任感の育成を目指した「協働活動」

学校教育目標

「豊かな未来を切り拓き、夢に向かい、共に生きる子ども」

めざす子どもの姿 (学校教育目標を子どもの姿に具現化する)

○元気にあいさつする子 ○しっかり勉強する子 ○人を大切にする子 ○きまりを守る子

追求する教職員の姿

① 子どもが好きで、豊かな人間性のある教職員

- ・誠実で温かい人柄、適切な判断・対応ができる良識や子どもへの深い愛をもった理解、仕事に対して熱意のある教職員

② 確かな指導力（授業力）のある教職員

- ・優れた指導理論や専門知識、指導技術を常に学び続ける教職員
- ・得意な教科づくりと個性・特性を生かし、指導しきる教職員

③ 使命感・責任感のある教職員

- ・与えられた職務に専念し、その成果を上げる使命感や責任感をもつ教職員

④ よりよい人間関係づくりができる信頼される教職員

- ・子ども・保護者・地域の人々に敬愛され信頼される教職員

期待する家庭の姿

① 会話がはずむ明るい家庭

- ・家族の会話によってコミュニケーションを学び、人間関係を築く基礎をつくり、それが安定した「学び」を支える力になります。

② しつけのできる確かな家庭

- ・早寝・早起き・朝ご飯・挨拶・ありがとう等の基本的生活習慣を確立する家庭
- ・家庭学習や読書の習慣を身につける家庭
- ・学校でしっかり学ぶことの大切さや「きまり」を守ることの大切さを教える家庭

③ 向上をめざして共に学ぶ家庭

- ・子どもの教育は、学校・家庭・地域社会の連携・協力が必要
- ・お互いに尊敬・理解しながらよりよい人間関係を構築し、信頼される家庭

活 力 あ る 教 育 活 動

確かな学力の定着・向上

- ・日々の授業や校内研究・研修等の充実
 - ・基礎・基本の確実な定着と自己学習力の育成
 - ・学習指導方法の工夫・改善
- 言語活動の充実、コミュニケーション能力の育成
- 読書活動の推進
- ・学年に応じた家庭学習の習慣化

豊かな心の教育の充実

- ・道徳教育を中心に豊かな心を育む教育の推進
- 基本的な生活習慣や社会における規範意識の形成
- ・教育相談・特別支援教育・生活指導の充実
 - ・「人・もの・こと」との交流や体験活動の推進

健やかな体の育成

- ・体力を高める体育的活動の実践
- ・健康・安全教育の推進
- ・食に関する指導の充実
- ・自然体験や奉仕体験などの体験活動の推進

信頼され開かれた学校

- ・積極的な学校公開や情報発信
- ・学校評価の有効活用
- ・コミュニティ・スクール…外部人材の積極的活用
- ・地域の文化・歴史の探究
- ・地域住民との連携・協力・交流

学校経営方針

① 重点目標の達成

- ・この学校が大好きということを実感できる「所属感・存在感・一体感・充実感」の四感のある学校・学年・学級経営を行う。
- ・全ての学習において「わかる・できる・つかえる・つくる」を視点に指導する。
- ・児童の意見やアイデアを引き出すなどして主体的な参加を促し、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する。
- ・学校だより、学校ホームページなど、あらゆる機会を通じて学校経営方針に基づいた取組について積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを行う。

② 共通理解

- ・報告・連絡・相談を密にし、教育活動の意義や理念等の共通理解・意思統一を図る。
- ・教職員の個性や持ち味を生かし、重点目標に基づいた創意ある教育活動を推進する。

③ 協働意欲・共通実践

- ・共通理解を得た教育活動は、児童第一義を念頭に、教育目標の達成に向けて教職員全体がスクラムを組んで取り組む。
- ・率先垂範をモットーに、教職員として絶えざる自己成長のため磨き合う。

④ コミュニケーションの充実

- ・教職員間の人間関係を大事にし、間教職員個々のもつ力量や良さを相互に引き出し、学校力を高める。
- ・同僚の協力こそが組織力である。インフォーマルなコミュニケーションも大切にする。

重点目標と具体的方策

自ら課題をもち、基礎・基本を身につけていく心豊かな子どもの具現化

① 校内研修を活性化し、互いに高まり合い、学びの楽しさが実感できる指導をする。(授業改善)

- ・講師を招聘し、一人1授業研究を行い、練り合い、高まりある授業を展開する。
- ・新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善(言語活動の充実)を行う。

② 算数科・国語科で学力向上に向けた取組を明確にする。

- ・ジョイントプログラムなどを活用することで、児童一人一人の習熟度を把握し、個別の指導をする。
- ・帯時間、チャレンジタイムなどを活用し、読み・計算力の定着を図る。

③ 自他のよさを発見し、望ましい人間関係をつくる。

- ・他者を思いやり、助け合う集団活動を取り入れた教科・道徳、学級活動、総合的な学習の時間を作成する。
- ・気持ちのよい言葉遣い、明るいあいさつ運動を展開する。(児童会活動等)

④ 心身ともに健康・安全な環境をつくる。

- ・共感的理解と受容的な態度を基本とした教育相談機能を充実させる。
- ・体力づくりプログラムを作成し、運動の生活化を図る。

⑤ 家庭・地域との連携を強化する。

- ・ふるさとの自然・文化・人材を活かした体験活動を推進する。(人材・教材バンクの充実)
- ・「わが家のやくそく」を各家庭で作成できるように呼びかける。
- ・学校から保護者・地域に向けて情報を発信する。

業務改善

① 教職員の協働体制のもとで学校運営を推進する

- ・全教職員が連携しながら、協働で行事や学級経営を行う。

② 会議、打ち合わせ時間の効率化を図る(放課後時間・児童に向き合う時間の確保)

- ・会議等開始、終了時刻を意識し、要点化して説明する。
- ・ネットワークを活用し、事務の効率化を図る。